

鳥獣害対策の現場から(8)

リレー随筆

長野県における鳥獣被害と対策

(長野県病害虫防除所防除企画課 きよさわあつひと 清澤靖仁)

平成9年度の、長野県における鳥獣による農作物被害は10億5,900万円(鳥類による被害:5億8,300万円, 獣類による被害:4億7,600万円)にのぼり、平成8年度に続いて被害額は10億円を超えた(平成10年度の被害額については現在調査中)。

農作物別に見ると、鳥類により水稲、果樹が、獣類により野菜、水稲、果樹が大きな被害を受けている。主な加害鳥獣をあげると、鳥類ではカラスによる被害が1億9,700万円、スズメによる被害が1億4,500万円で、両鳥で鳥類被害全体の60%弱を占めている。獣類ではシカによる被害が1億3,000万円、サルによる被害が1億300万円、イノシシによる被害が9,500万円で、3獣で獣類による被害全体の約70%を占めている。

1 主な鳥獣による被害と対策

(1) カラス

カラスは果実や野菜を食害するだけでなく、りんごなどにかけた袋を外してしまったり、植えたばかりの野菜の苗などを抜いたりといった、いたづらによる被害も多く報告されている。このところ、対策として捕獲檻を設置する地区が増えてきている。おどり 囃の手配や定期的な餌の補給など、維持管理にやや手間がかかるが、効果を上げており、県全体の被害額は減少傾向にある。

ただ、一部にはカラスの捕獲に対する反対もあり、捕獲したカラスを逃がされてしまうこともある。

(2) シカ

シカについては、定植間もない、もしくはある程度

生長したイネや野菜を食べられてしまう被害が、中山間地で多く発生している。圃場内へのシカの侵入を防止するため、人間の背丈程の高さの柵や電牧柵を設置するといった対策が主にとられている。最近では匂い物質の忌避効果を使った防除についても、省力的であるということで試験的に実施されていて、効果が期待されている。

(3) サル

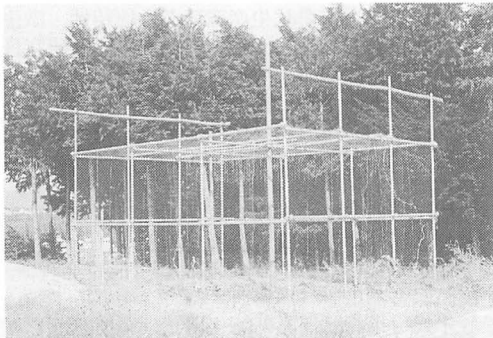
サルによる被害は平成6年ごろから急増し、各地で深刻な状況になっている。被害は果樹、野菜、水稲など多岐にわたっている。カラス同様、食害ばかりでなく、袋掛けの済んだブドウの房を落としたり、たばこの生長点部分を折ってしまうといった、いたづらによる被害も多く発生している。地区によってはサルが民家へ侵入し部屋を荒らすケースもあり、被害は農業だけにとどまらない。

サル被害が急増した原因については、個体数の増加や山の生活環境の悪化などが言われているが、はっきりとしたことはわかっていない。

対策としては、威嚇装置や電牧柵(高さが高く、丈夫なもの)が使われる。しかし、威嚇装置は時間がたつとサルが慣れてしまい、電牧柵は小さな隙間があったり、柵にかぶっている木の枝などがあるとそこから侵入して来るため、思ったような効果が上がらない場面もある。駆除については猟友会などへ委託している市町村が多いが、猟友会でもサルをあまり撃ちたがらない(人間に似ている、効率が悪い、捕獲しても価値がない?)ため、捕獲檻の設置を検討するところが増えていく。

(4) イノシシ

イノシシによる被害は、平成7年ごろから根菜類を中心に急増し、品目によっては産地の存続にかかわる問題となっているところもある。それに伴い電牧柵の



カラスの捕獲檻



イノシシよけのためのトタン板による柵

設置等の対策がとられ、被害の増加に歯止めがかかってきている状況である。

獣類対策については、電牧柵などを集団で設置して効果を上げている地区がある反面、山間地で、小さな畑が山際などに散在しているような場合は、栽培規模に比べ設置費用がかかるうえ、維持管理に手間がかかるため、電牧柵などは導入をあきらめざるを得ない所も多くあり、そのような場所での防除対策が課題である。

水稲や果樹での鳥類対策については、防止策として

爆音器が多く使われているが、農村部の宅地化が進んだことにより、市町村、農協などへ苦情が多く寄せられており、これについても対応が必要になってきている。

最近、市町村の担当者や農家の方から、サルやイノシシの被害対策について、相談や問い合わせを受けることが多くなった。また、新しく発売された防除器具などについて問い合わせもある。しかし、防除所にも鳥獣害対策に関する情報が少なく、回答に苦慮することが多々ある状況である。

人事消息

(3月31日付)

西村繁夫氏(茨城県農業総合センター生物工学研究所長)は採用・農業生物資源研究所付に

岡 成美氏(農業生物資源研究所生物工学部分化制御研究室長)は退職〔茨城県農業総合センター生物工学研究所長に〕

松永隆司氏(食品総合研究所素材利用部長)は退職〔秋田県立大学教授に〕

最上邦章氏(九州農業試験場次長)は退職

美濃部有三氏(農業生物資源研究所分子遺伝部長)は退職

日比野啓行氏(農業環境技術研究所環境生物部長)は退職

堀井正治氏(食品総合研究所生物機能開発部長)は退職(4月1日付)

古谷 修氏(東北農業試験場長)は退職

小野良孝氏(四国農業試験場長)は退職

橋詰和宗氏(農業研究センター総合研究官)は退職

小泉銘册氏(果樹試験場カンキツ部長)は退職

西村繁夫氏(農業生物資源研究所付)は出向〔筑波大学教授農林学系〕

真木太一氏(農業環境技術研究所環境資源部気象管理科長)は出向〔愛媛大学教授農学部〕

井上隆弘氏(東北農業試験場次長)は同場場長に

滝本勇治氏(四国農業試験場企画連絡室長)は同場場長に

中井博康氏(畜産試験場加工部長)は東北農業試験場次長に

施山紀男氏(農業研究センター総合研究官)は九州農業試験場次長に

松尾誠介氏(中国農業試験場畑地利用部長)は農業研究センター総合研究官に

肥後健一氏(農業生物資源研究所企画調整部研究交流第1科長)は同所分子遺伝部長に

河部 暹氏(東北農業試験場地域基盤研究部長)は農業環境技術研究所環境生物部長に

野内 勇氏(農業環境技術研究所企画調整部企画科長)

は同所環境資源部気象管理科長に

高辻豊二氏(果樹試験場カキ・ブドウ支場長)は果樹試験場カンキツ部長に

真田哲朗氏(果樹試験場リング支場上席研究官)は果樹試験場カキ・ブドウ支場長に

中山正義氏(四国農業試験場企画連絡室企画科長)は東

北農業試験場地域基盤研究部長に

原 正紀氏(東北農業試験場企画連絡室企画科長)は中国農業試験場畑地利用部長に

氏原和人氏(九州農業試験場作物開発部長)は四国農業試験場企画連絡室長に

松井重雄氏(国際農林水産業研究センター海外情報部国際研究情報官)は九州農業試験場作物開発部長に

八巻 正氏(農林水産技術会議事務局研究管理官(研究開発担当))は農業総合研究所農業構造部長に

中北 宏氏(食品総合研究所流通保全部貯蔵害虫研究室長)は同所素材利用部長に

吉田泰治氏(農業総合研究所経済政策部上席研究官)は農林水産技術会議事務局研究管理官(研究開発担当)に

(3月28日付)

渡邊朋也氏(科学技術振興事業団海外派遣研究員(オーストラリア熱帯研究センター))は採用(九州農業試験場地域基盤研究部主任研究官(害虫管理システム研究室)に)

(4月1日付)

渡邊朋也氏(九州農業試験場地域基盤研究部主任研究官(害虫管理システム研究室))は農業研究センター研究情報部主任研究官(モデル開発研究室)に

川名義明氏(九州農試水田利用部雑草制御研)は農研センター耕地利用部水田雑草研へ

岩野正敬氏(九州農試地域基盤研究部上席研究官)は農研センター病害虫防除部水田病害研究室長に

相馬 聡氏(北海道農試畑作研究センター主研(環境制御研究チーム))は農研センター病害虫防除部主研(線虫害研)に

草場 敬氏(北海道農試生産環境部土壌特性・微生物研究室長)は農研センター土壌肥料部土壌診断研究室長に

長谷川周一氏(農環研環境資源部土壌管理科土壌物理研究室長)は農環研企画調整部企画科長に

加藤英孝氏(北海道農試生産環境部主研(土壌特性・微生物研))は農環研環境資源部土壌管理科土壌物理研究室長に

石原 悟氏(農薬検査所検査第一部企画調整課)は農環研資材動態部農薬動態科農薬管理研へ

岩波 徹氏(果樹試カンキツ部主研(形質発現研))は果樹試保護部主研(病害研)に

兼松聡子氏(果樹試保護部病害研)は果樹試リング支場病害研へ

(40ページに続く)